

紫波医報

令和5年1月号

No. 243



紫波医報243号目次

巻頭言(藤島 幹彦先生)	3
紫波郡医師会定例理事会報告	4
紫波郡地域包括ケア推進支援センターから	8
講演会・研修会	10
アドバンス・ケア・プランニング研修会(星野 彰先生)	12
かかりつけ医認知症対応力向上研修(赤坂 博先生、石塚 直樹先生)	14
エッセイ「みちのく療育園開設20周年に寄せて」(伊東 宗行先生)	18
訃報	20
表彰受章者	21
会員の異動	21
編集後記	22

表紙のことば

2021年1月26日

遠く早池峰山を従えた岩手山は堂々とし、踊っているような雪のモンスター達を穏やかに眺めているようにも見えます。

1月では珍しい晴れ渡った八幡平は、透きとおった青と白の世界。

様々な想像が湧いてくる穏やかな冬の日でした。

(紫波郡地域包括ケア推進支援センター 伊藤 信一)

❖ 巻頭言

ご 挨拶

紫波郡医師会 副会長 藤 島 幹 彦

新年明けましておめでとうございます。紫波郡医師会の皆様、そしてご家族の方々と共に新年を迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行（パンデミック）が始まってから3年が経ちました。当初スペイン風邪と同様に流行の波は約3年で収束すると予測されていましたが、2022年12月時点でも第8波が収束しておらず、今後もウイルスの変異株により流行の波が続く可能性があります。厚生労働省が昨年11月に行った日本赤十字社の献血をもとにした自然感染により得られる抗N抗体の保有率は岩手県では16.5%でした。集団免疫としては十分とは言えず、今後ワクチン接種を積極的に進める必要があります。通常ワクチン開発から実用化までは約10年以上かかると言われています。今回mRNAワクチンが短期間で実用化されたのは1987年ソーク生物学研究所の大学院生Robert Maloneの基礎研究を基に多くの地道な研究が進められていたお陰でハンガリー科学アカデミーのKariko Katalin博士が企業と協同でSARS-CoV-2に対するmRNAワクチンが約1年の驚異的速さで開発されることになりました。COVID-19の死亡率、重症化の改善にはワクチン接種と治療薬の開発によるところが大きいと思われます。

医師会員の皆様にはワクチン集団接種、個別接種、発熱外来等の業務にご協力いただき心より感謝申し上げます。医師会としては一部の施設に負担が掛かりすぎないように対策を検討していきたいと考えております。COVID-19収束まではまだしばらく時間がかかりそうですので今後も可能な範囲でのご協力を宜しくお願いいたします。

昨年の全世代型社会保障構築会議では2040年を視野に入れて、高齢化・人口減少に対応した医療・介護の供給体制改革の必要性が話し合われています。医療では具体的には地域医療構想の推進、医療法人改革の推進、働き方改革の推進、タスク・シフト/シェア、医療の担い手確保、医師偏在対策の推進、入院・外来・在宅医療の在り方、かかりつけ医機能の検討、データヘルス・オンライン診療の推進、AI・ロボット・ICT活用などのDXの推進等です。オンライン資格確認システムはすでに稼働しており、今月からはこのシステムを基盤とした電子処方箋の発行も始まります。今後も社会構造の変化とともに医療環境も変動していきますので私たちの適切な対応が求められています。

最後になりましたが、本年が皆様とご家族の方々にとって穏やかな良い年となりますよう心よりお祈り申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和4年度第4回定例理事会報告

日時：令和4年7月11日(月) 18:30～
場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 矢巾町高齢者（75歳以上）の保健事業と介護予防の一体的実施に伴う受診勧奨について了承
- (2) 管内におけるPCR検査医療機関への紹介方法の再確認
- (3) 岩手医科大学附属病院救急外来受診のあり方について検討
- (4) コロナワクチン接種体制について
- (5) 感染状況について 県内で初めて「B.A.5株」の発生確認

令和4年度第5回定例理事会報告

日時：令和4年8月22日(月) 18:30～
場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 叙勲受章 堀江 寛先生及び岩手県知事表彰者 足澤国男先生、西城精一先生が決定
- (2) 矢巾町ロードレース大会について、堀江 圭先生及び看護師1名を派遣
- (3) 紫波町・矢巾町インフルエンザ予防接種について高齢者/小児30機関が承諾、盛岡市小児については、10機関の協力を得る
- (4) 乳幼児健診体制を見直し、クラスター発生に備え予備日を設置して集団健診を継続
- (5) 令和5年度岩手県医師会野球大会への参加は見送りとする
- (6) オンライン資格確認が原則義務化（R5年4月より）に伴いシステム構築の状況について、アンケート調査を実施する
- (7) コロナワクチン接種における感謝状授与（矢巾町9/13、紫波町9/16）
- (8) 感染状況について（8/21現在累計）
- (9) お盆期間中の診療・検査医療機関として、8/13・15南昌病院、8/13けんたろうこどもクリニックに依頼する
- (10) 閉院に伴う12/29休日救急当番医の変更
- (11) 盛岡赤十字病院「赤十字いわて」の事業活動に対しての支援依頼は各医院の判断とする
- (12) 生涯教育講座（10/26 エーザイ、11/29 MSD）の承認

令和4年度第6回定例理事会報告

日時：令和4年9月12日(月) 18:30～
場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 盛岡赤十字病院初期臨床研修管理委員会委員について、現委員の野崎有一先生を継続して推薦
- (2) 救急病院の指定更新に伴う意見書について、岩手医科大学附属病院の申請に対する認定を承認

- (3) 紫波町・矢巾町1.6歳児及び3歳児集団健診に代替え医師を設定することを承認
- (4) オンライン資格確認の原則義務化について各医院の導入済み状況を確認
- (5) 岩手県対がん協会賛助会員の会費（寄附）納入について
- (6) お正月期間（当番日の6日間に診療・検査医療機関なし）の発熱外来整備について新規検査医療機関を募る
- (7) 新型コロナワクチン接種は来年3月まで無償期間を延長とし、説明会は、紫波町9/26、矢巾町9/27実施
- (8) 感染状況及び「いわて陽性者登録センター」の設置等について
- (9) 令和5年紫波郡医師会・歯科医師会新年交賀会を中止とすることについて承認
- (10) 生涯教育申請書の受理について承認

令和4年度第7回定例理事会報告

日時：令和4年10月17日(月) 18:30～

場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 紫波東学園（小中一貫校）の学校医統一について、内科は、紫波地域診療センター、眼科は早坂朗先生を推薦
- (2) 岩手日報社主催「一関・盛岡間駅伝競走」11/23救護班へ堀江 圭先生を派遣
- (3) 岩手県医師会健康スポーツ医学委員会委員について、多田広志先生を推薦
- (4) 都道府県災害医療コーディネーター研修について、箱崎誠司先生を推薦
- (5) 矢巾町緊急支援金について、入所施設10万円、診療所・歯科・通所施設5万円を支給、紫波町追従の予定
- (6) 岩手県央保健所主催／経口コロナウィルス治療薬「モルヌピラビル」「ニルマトレビル」に係る研修会を11/7に開催、共催を承諾
- (7) お正月期間の当番医体制強化について検討
- (8) 令和5年度休日救急当番医についてコロナ対策などを考慮し担当理事へ調整依頼
- (9) 新型コロナワクチン接種体制について
- (10) 感染状況について
- (11) 紫波医報No.243号について、各項目の原稿執筆を依頼
- (12) 会員の異動 山下純一先生（総合花巻病院を退職され自宅会員）

令和4年度第8回定例理事会報告

日時：令和4年11月21日(月) 18:30～

場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 盛岡圏域難病対策協議会委員について、野崎有一先生を継続して推薦
- (2) 矢巾町煙山保育園嘱託医について、田中健太郎先生を継続して推薦
- (3) 紫波町介護認定審査員について、松尾力先生、簗福公正先生、伴 弘先生、直島淳太先生を継続して推薦
- (4) お正月期間の発熱外来強化体制について検討

- (5) 令和5年度休日救急当番医（5月、お盆、正月）に発熱外来を配置することについて承認
- (6) 新型コロナワクチン接種体制について
- (7) 感染状況について
- (8) 会員の異動 八木クリニックがR5.1.31に閉院し、3.31をもって退会

令和4年度第9回定例理事会報告

日時：令和4年12月19日(月) 18:30～
場所：ケアセンター南昌よりZOOM配信

- (1) 岩手県央保健所運営協議会委員について、木村宗孝先生を継続して推薦
- (2) 八木先生の後任として、流通センターの北川保育園（徳田保育園と同法人）嘱託医に堀江圭先生を推薦
- (3) 診療・検査医療機関について、新規：11/21川守田医院、12/19堀江医院が登録
- (4) 県央保健所の依頼により、岩手医大小児科にて臨時発熱外来を実施
12/29紫波郡医師会より、平井大士先生、武藤秀和先生を派遣（障害保険加入）
- (5) 令和5年度休日救急当番医における協力依頼事項の総会提出について承認
- (6) 新型コロナワクチン接種体制について
- (7) 新型コロナ・インフルエンザ同時流行について

● 事務局からのお知らせ ●

会員の先生方で、入会時以降に住所や勤務先、その他下記の変更等がございましたら、医師会事務局までお知らせください。

- ①氏名変更
- ②施設名称の変更（法人化も含む）
- ③施設所在地・電話番号等の変更（住居表示の変更も含む）
- ④自宅現住所・電話番号等の変更（住居表示の変更も含む）
- ⑤施設異動（勤務先の変更等・自宅会員への異動も含む）
- ⑥文書配達先の変更
- ⑦本人・家族の慶弔
- ⑧褒章等を受章された場合

また、病院・診療所を休院や廃止される場合や診療時間に変更等が生じた際も、お手数ですが、医師会事務局までお知らせください。 紫波郡医師会事務局

2022年 会務報告(6月～12月)

6/22	水	岩手県対がん協会第14回評議員会	メトロポリタンNW	15:30	木村
6/27	月	盛岡地区二次救急医療対策委員会	盛岡市医師会館	19:00	木村
7/1	金	第1回医療介護連携ICT研修会《連携》	紫波町情報交流館	15:00	伊藤、25名
7/3	日	第74回岩手県医師会総会・岩手医学会総会	プランニュー北上	10:00	木村、関
7/13	水	紫波郡学術講演会(住友ファーマ)▷糖尿病	やはばーく/ハイブリット	18:30	関、野崎
7/22	金	矢巾町成年後見制度利用促進審議会	さわやかハウス	10:00	木村
7/26	火	矢巾町健康づくり委員会	書面開催へ変更	18:30	木村
7/28	木	4回目ワクチン接種打合せ(紫波町・矢巾町)	南昌病院	11:00	木村、事務局
7/29	金	第2回医療介護連携ICT研修会《連携》	ZOOM配信/アイーナ	15:00	伊藤
8/4	木	紫波郡地域包括ケア推進協議会《連携》	書面開催へ変更	18:30	木村、野崎 直島、藤島(行)
8/6	土	第1回郡市医師会会長協議会	岩手県医師会館	15:30	木村
8/9	火	医療介護連携アセスメントスキル研修会《連携》	ZOOM配信/県立大学	15:00	伊藤
8/18	木	岩手県医師会勤務医部会幹事会	ZOOM配信/県医	18:30	松尾
8/20	土	岩手県医師会広報委員会	岩手県医師会館	15:00	木村、遠藤
8/26	金	第3回医療介護連携ICT研修会《連携》	ZOOM配信/アイーナ	15:00	伊藤
9/9	金	BA1ワクチン接種連絡会(紫波町・矢巾町)	南昌病院	11:00	木村、伊藤 南昌事務等
9/13	火	矢巾町コロナワクチン接種に係る感謝状授与	矢巾町長室	10:30	木村
9/16	金	紫波町コロナワクチン接種に係る感謝状授与	紫波町長室	11:00	木村
9/17	土	岩手県医師会女性医部会幹事会	岩手県医師会館	16:00	佐藤(典)
9/25	日	日本スポーツマスターズ2022岩手県大会自転車競技2日目 医師派遣	紫波町自転車競技場	7:30～ 15:30	堀江
10/2	日	矢巾町ロードレース 医師・看護師派遣	矢巾町民総合体育館	9:00～	堀江
10/7	金	医療介護連携ACP研修会《連携》	紫波町情報交流館/Z	18:30	加藤
10/8	土	第2回郡市医師会会長協議会	岩手県医師会館	15:30	木村
10/12	水	矢巾町・子ども子育て会議	さわやかハウス	15:00	田中
10/14	金	医療介護連携アセスメントスキル研修会《連携》	ZOOM配信/県アイーナ	15:00	伊藤
10/26	水	紫波郡医師会講演会(エーザイ)▷不眠症	やはばーく/ハイブリット	18:30	野崎
10/27	木	外来感染対策向上加算に係るカンファレンス	おでって/ハイブリット	19:00	盛医、会員
11月～		都道府県災害医療コーディネーター研修	WEB配信/修了テスト	13単位	箱崎
11/5	土	みちのく療育園創立20周年記念式典	矢巾町田園ホール	9:30	代:伊藤
11/7	月	コロナ経口ウイルス薬研修会(県央保健所)	WEB配信	19:00	24名参加
11/8	火	郡市医師会事務研修会	WEB配信	14:00	事務局
11/8	火	かかりつけ医認知症対応力向上研修《連携》	紫波町情報交流館/Z	18:30	野崎
11/16	水	紫波郡医師会学術講演会(第一三共)▷疼痛	ニューカリーナ	19:00	佐藤(典)
11/23	祝	日報駅伝 救護班医師派遣	友愛病院集合	8:45	堀江
11/26	土	岩手県糖尿病対策推進協議会	岩手県医師会館	14:00	関
11/29	火	紫波郡医師会学術講演会(MSD)▷コロナ・糖尿病	メトロポリタンNW	19:00	関
12/1	木	第3回中央病院地域医療連携委員会	県立中央病院4階	18:00	木村
12/3	土	第3回郡市医師会会長協議会	岩手県医師会館	15:30	木村
12/21	水	新型コロナウイルス感染症対応セミナー	盛岡市保健所より配信	19:00	会員
12/21	水	R5幼児健診・休日当番医打合せ(両町)	さわやかハウス	14:00	事務局
		第3回盛岡赤十字病院地域医療支援委員会	書面会議		木村

紫波郡地域包括ケア推進支援センターから

～ 紫波・矢巾両町共同設置の医療介護連携支援センター（れんけいしわぐん）～

紫波郡医師会の皆様には、新型コロナウイルスへの感染者発生が続いている中、日々の診療業務をはじめ、ワクチン接種やウイルス検査など、予防・治療から感染拡大防止にご尽力いただいておりますことに心から感謝を申し上げます。

また、当支援センターの主催する多職種連携研修をはじめ、事業の実施にあたり、紫波郡医師会の先生方の御理解と御支援をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

本年も地域包括ケアシステムの構築や医療・介護の連携の推進にご協力くださるよう、改めてお願い申し上げます。

◆ 令和4年中の主な取組み

○ 紫波郡医師会、紫波・矢巾両町をはじめ、医療・介護関係者や関係機関・団体等との連携のもとに、在宅療養の医療介護資源（サービス提供事業所、マンパワー）の拡充や担い手の疲弊防止、多職種連携、ネットワークづくりなどに取り組んでいます。

○ 紫波町及び矢巾町における在宅医療と介護の連携等の推進等に係る事項を協議するために設置されている「紫波郡地域包括ケア推進協議会（会長：紫波郡医師会長）」においては、主に次のとおりの報告事項等を行っています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響から2回とも書面開催となりました。

・ 令和3年度第2回紫波郡地域包括ケア推進協議会（令和4年3月に書面開催）

令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画（案）等について等

・ 令和4年度第1回紫波郡地域包括ケア推進協議会（令和4年7月に書面開催）

会長の選任、令和4年度の紫波郡地域包括ケア推進協議会及び紫波郡地域包括ケア推進支援センター運営事業の取組み等について

※令和2～3年度は矢巾町が、令和4～5年度は紫波町が事務局となり運営しています。

◆ 在宅療養に関する多職種連携研修会等の実施状況（R4.1～R4.12）

1 令和3年度（R4.1～R4.3）

(1) 多職種連携研修会

ア 開催日時等 1月26日(水) 18:30～20:00(矢巾町交流活動センターから配信)

74人参加(うち医師12人参加)

イ 講演 座長 箱崎脳神経外科クリニック 院長 箱崎誠司 先生

講演 「コロナ禍における災害医療と感染症対策について」

講師 岩手医科大学医学部 救急・災害・総合医学講座教授 眞瀬智彦 先生

(岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター長)

2 令和4年度（R4.4～R4.12）

(1) 医療介護連携ICT研修会

ア 開催日時・研修テーマ等

① 第1回≪Zoomの使い方講座Step 1≫

～Zoomを使ってミーティングができるようにしよう～

(7月1日(金) 15時～ 紫波町情報交流館大スタジオ 25人参加)

- ② 第2回《Zoomの使い方講座Step 2》
～Zoomを使って少人数ミーティング、家族との面接を実施しよう～
(8月6日(金) 15時～ 岩手県立大学アイーナキャンパスから配信 25人参加 (うち医師1人参加)
- ③ 第3回《Zoomの使い方講座Step 3》
～Zoomを使ってサービス担当者会議、リモートカンファレンスを実施しよう～
(8月26日(金) 15時～ 岩手県立大学アイーナキャンパスから配信22人参加)
イ 講師 岩手県立大学社会福祉学部 伊藤隆博 准教授
- (2) 医療介護連携研修会
ア 開催日時・研修テーマ等
① 第1回アセスメントスキル研修
～アセスメントスキルとコロナ禍の面接技術～
(8月9日(火) 15時～ 岩手県立大学から配信22人参加)
② 第2回アセスメントスキル研修
～スーパービジョンの基本理解と実践-取り組みやすいスーパービジョン-～
(10月14日(金) 15時～ 岩手県立大学から配信16人参加)
イ 講師 岩手県立大学社会福祉学部 伊藤隆博 准教授
- (3) 多職種連携研修会 (ACP研修会)
ア 開催日時等
10月7日(水) 18:30～20:00(ハイブリッド、紫波町情報交流館大スタジオから配信)
93人参加 (うち医師3人参加)
イ 講演 座長 加藤胃腸科内科医院 院長 加藤博巳 先生
講演 「幸せに歳を重ねるために人生の心づもりをしませんか? -岩手県北上市の取り組み-」
講師 岩手県立中部病院 副院長兼第1緩和科長 星野彰 先生
- (4) 医療介護多職種連携研修会 (かかりつけ医認知症対応力向上研修)
ア 開催日時等
11月8日(水) 18:30～20:00(ハイブリッド、紫波町情報交流館大スタジオから配信)
106人参加 (うち医師14人参加)
イ 講演 座長 野崎内科・神経内科医院 院長 野崎有一 先生
講演 「認知症は予防できるのか? -これからの地域に求められる予防の知識と理解-」
講演1 「発症予防の視点から」
講師 岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野 助教 赤坂博 先生
講演2 「発症後の視点から」
講師 岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野 講師 石塚直樹 先生

◆ 今後の主な予定 (R5.1～R5.3)

- 入退院支援アンケート調査を実施する
- 令和4年度第2回紫波郡地域包括ケア推進協議会 (令和5年3月2日)
協議事項: 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画等を予定

◎ 11 / 16 (水) 紫波郡医師会学術講演会



ホテルニューカーリーナ/ハイブリット 19:00 参加14名

座長：南昌病院脳神経内科 部長 佐藤 典子 先生

「内科での疼痛管理について」

講師：岩手医科大学医学部

脳神経内科・老年科分野 講師 大橋 一雅 先生

◎ 11 / 29 (水) 紫波郡医師会学術講演会

メトロポリタンニューウィング/ハイブリット 19:00 参加24名

座長：せき内科胃腸クリニック 院長 関 英政 先生

演題1 「当院におけるコロナ対策とラゲブリオの使用経験」

講師：坂の上の田村太志クリニック 院長 田村 太志 先生

演題2 「220例の自験例から見てきたリベルサスの可能性について」

講師：中通総合病院 糖尿病・内分泌内科 統括課長 松田 大輔 先生

◎ 7 / 1 (金) 第1回医療介護連携ICT研修会 紫波町情報交流館 15:00 参加25名

◎ 7 / 29 (金) 第2回ICT研修会 県立大学アイーナキャンパスから配信 15:00 参加25名

◎ 8 / 26 (金) 第3回ICT研修会 県立大学アイーナキャンパスから配信 15:00 参加22名

「Zoomの使い方講座」 Step1～3

Zoomを使って家族面談・リモートカンファレンスを実施しよう

講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 伊藤 隆博 先生



◎ 8 / 9 (金) 第1回アセスメントスキル研修会 県立大学から配信 15:00 参加22名

◎ 10 / 14 (金) 第2回アセスメントスキル研修会

県立大学から配信 15:00 参加16名

「相談援助職の面接技術/スーパービジョンの基本理解と実践」

講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 伊藤 隆博 先生

紫波郡在宅療養多職種連携アドバンスケア・プランニング研修会

令和4年10月7日(金) 於：紫波町情報交流館大ホール

「幸せに歳を重ねるために人生の心づもりをしませんか？」 ～北上市の取り組み～

岩手県立中部病院

副院長 星 野 彰 先生



本日は、まず、世の中で注目されているアドバンスケア・プランニング（ACP）について、その定義や目標、実践時のポイントなどを私見を交えてお伝えし、お話の後半で、2016年から北上市で市役所、医療・介護・福祉関係者、一般市民が一緒になって進めている「人生の心づもりプロジェクト」について紹介します。

【ACPの定義、目標、私たちがめざすACP】

日本医師会はACPを、「将来の変化に備え、将来の医療およびケアについて、本人を主体に、その家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセス」と定義しています。

もともとACPが日本に入ってきたときには、意思表示ができなくなったための最後の医療とケアを決めておく話し合いをしておきましょう（狭義のACP）という意味合いが強かったように思いますが、最近のACPは医師会の定義のように、身体や頭が弱ったときの生活、家族、医療などを最後の時も含めて考えておきましょう、といういわゆる広義のACPに向かっているようにみえます。そして、私たちが現場で行うACPも、患者さん家族と幅広く将来の話をしていくプロセスを大事にする広義のACPでよいと思うのです。

【市民側のニーズと気持ちから考えるACP実践の注意点】

市民の皆さんと話をすると、年を重ねるにつれて、健康問題、生活の場所、お金、家族のことなど、たくさん心配事はあって様々な準備をしておかなければならないのはわかっている、けれど、今は元気で暮らしたい、自分が老いていくこと弱っていくこと、いつかは最後を迎えることを、わかっているけど認めたくはない、という複雑な心情が見えてきます。自分が弱っていくときの医療や生活について考えるということ自体が実はとてもデリケートなことがらなので、医療・介護側の一方的な押し付けでACPを進めてはいけないということを私たちは気に留めておくことが重要と感じています。

【ACP実践のポイント】

ACP実践時のポイントを私個人の見解も入れてお伝えします。

1. まず話を聴く姿勢を大事にして、現在の身体や生活の状況、気がかりについて聴く。
2. 信頼関係ができてから、将来の生活や受たい医療、ケアについて聴いていく。
3. 最後の医療やケアについては聞いたら聞けばよいが、答えを迫らなくてよい。
4. できるだけ家族も一緒に話をして情報や気持ちを共有する。
5. こちらの気持ちを押し付けない。結論を急がない。繰り返し話し合う。

【北上市のとりくみ】

2016年、北上市主催の医療介護連携会議で、地域の皆さんが幸せに歳を重ねるために必要なことというテーマでディスカッションが行われ、そのなかで医療介護福祉の充実と連携はもちろん重要だが一方で市民一人ひとりの心づもりも大切ではないかという提言が行われました。市民講演会、勉強会を経て、医療・介護・福祉関係者や市役所職員、一般市民も参加したチームが結成され、「わたしのきぼうノート」作成の取り組みが始まりました。事務局として実務を行ったのは北上市の長寿介護課と在宅医療介護連携拠点です。「きぼうノート」は自分で書き込むパート、話し合いをしながら書き進めるパート、資料編に分かれていて、身体や医療だけでなく将来の生活についての希望なども書き込み、調べることができます。

ノートの完成と同時に心づもり出前講座も始まり、地域からのリクエストに応じて私たち医療者や市役所のスタッフが市内の集会所等にお伺いして地域の皆さんと一緒に勉強会を行っています。ノートの入手方法については各戸への一斉配布などは行わず、市役所窓口での配布、市のHPからのダウンロード、各地域での出前講座や、市内12か所の診療所での配布など、希望する方にだけノートが届くような工夫を行っています。2022年10月現在、約6,000冊が配布されています。市民一人ひとりを対象にした息の長い取り組みが重要と私たちは考えており、これからも地域の皆さんと一緒に地道な活動を続けていきたいと思っています。

【最後に】

本日はACPについて考えていることや取り組みのポイントをお伝えし、北上市の心づもりプロジェクトについてご紹介しました。私たちの町が、紫波の町が、年をとっても病気をしても安心して幸せに暮らせる町であり続けることを願っています。

参考文献

1. アドバンスケア・プランニングのエビデンス：森雅紀、森田達也：医学書院
2. わたしのきぼうノート／北上市公式ホームページ (city.kitakami.iwate.jp)



❖ かかりつけ医認知症対応力向上研修《多職種連携》

令和4年11月8日(火) 於：紫波町情報交流館大ホール

認知症は予防できるのか？ - これからの地域に求められる予防の知識と理解 - 演題1 「発症予防の視点から」

岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野

助教 赤坂 博 先生

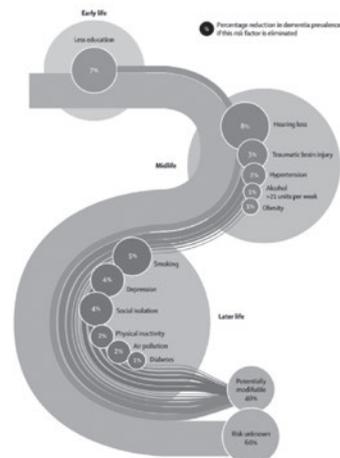


「認知症予防」という言葉が毎日のようにテレビや新聞などのメディアで取り上げられるようになった。認知症の増加が我が国の大きな社会問題とされ、認知症のネガティブキャンペーンが後押しして、多くの人に関心を持つようになった。認知症の「市場」も活性化している。しかし、そもそも「認知症予防」は可能なのだろうか。本稿では、「一次予防」に着目し、「認知症にならないようにすることが可能なのか」考え

てみたい。

認知症は増えていくということがもはや自明のことのようになっているが、世界に目を向けてみると、実は、オランダ、フランス、イギリス、アメリカにおける長期的調査では、認知症の年齢別発症率が低下していることが報告されている。これらには、教育、社会経済、医療、ライフスタイルなどの社会的背景の改善されていることが影響しているのではないかと指摘されている。World Alzheimer Reportによる2015年の推計でも、2030年、2050年にかけては、裕福な国々よりも、収入が低い国々で認知症が増えていくことが予想されているが、社会的背景に改善が見込めるかどうかが決定的な要因となっている。

具体的な危険因子に目を向けてみると、いくつかのメタ解析による報告から、若年期と中年期においては、不十分な教育、聴覚障害や頭部外傷、高血圧、21ユニット以上のアルコールの摂取(例：1週間で350mlのビール12缶以上、コップ酒5杯以上)、肥満が危険因子とされている。晩年期では、喫煙、うつ、社会的孤立、身体的不活



発、大気汚染、糖尿病が危険因子として挙げられている。これらのコントロールにより40%の認知症は予防できると提唱されている(図、Livingston G, et al. The Lancet Commission 2020.より抜粋)。

一方で、認知症の原因疾患のうち最も割合の多いアルツハイマー病は、発症する20年以上も前からアミロイドβやタウ蛋白が蓄積しはじめるが、先述の危険因子への介入がアミロイドβ等の出現を抑制することが直接的に示されている訳ではない。また、主な認知症の原因疾患が、脳血管障害からアルツハイマー病に移行してきたのと同じように、さらに80歳、90歳を超える長生きの高齢者が増え、それらの高齢者の中に「大脳辺縁系優位型老年期TDP-43脳症」なる原因疾患が認められることが国際的なワーキンググループによって報告された。想像を絶する莫大な資財を投入して開発されているアルツハイマー病への疾患修飾薬がようやく日の目を見ようとしている状況で、治療のターゲットとなる病理そのものが変化してきているとすれば皮肉なことである。

これらをふまえると、「発症をしないようにする」予防とともに、「1年でもいいから発症を遅らせる」予防にも取り組んでいく方が、認知症を身近に感じるようになった高齢者にとっても、それら高齢者への施策を考える社会にとっても現実的で有意義なものとなりうる。我々も全国8か所の地域における1万人の地域在住高齢者を対象とした大規模な認知症コホート研究に参加し、矢巾町の1,000人近い高齢者を対象に7年目の調査を実施している。ゲノム情報、頭部MRI、生理的データ、食事や運動や睡眠などの生活習慣など、ありとあらゆる側面から検討を行っている。決して簡単なことではないが、地域における正確な認知症の理解を進めながら、研究によって新しい知見を得て、認知症の予防と共生が可能な地域づくりに貢献していきたい。



赤坂 博 先生



石塚 直樹 先生

❖ かかりつけ医認知症対応力向上研修《多職種連携》

令和4年11月8日(火) 於：紫波町情報交流館大ホール

認知症は予防できるのか？ - これからの地域に求められる予防の知識と理解 - 演題2 「発症後の視点から」

岩手医科大学 内科学講座 脳神経内科・老年科分野

講師 石塚直樹先生



はじめに

2021年6月に米国においてアルツハイマー病 (Alzheimer's disease, AD) の疾患修飾薬であるアデュカヌマブが条件付きで承認されたが、本邦においては承認見送り・継続審議となり、実臨床でのADの治療は進行を遅らせることや認知症の行動・心理症状 (Behavioral and psychological symptoms of dementia, BPSD) に主眼が置かれている。9月28日には別の疾患修飾薬の一つであるレカネマブが治験においてその有効性が公表され、2022年11月29日に医学誌「New England Journal of Medicine」に掲載された。

脳内アミロイド病理所見が確認されたADによる軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment: MCI) および軽度ADを対象とした大規模なグローバル臨床第Ⅲ相 Clarity AD 検証試験では、認知機能低下の抑制やアミロイドの減少が示される一方で、脳出血や脳浮腫などの副作用についても報告されており手放しでは喜ぶことはできないが、米国の承認に結果いかんでは来年以降本邦でも治療の選択肢として挙げられるようになるかもしれない、その動向に注目が集まっている。

その様な情勢の中、2022年11月8日に紫波町情報会館にて、紫波郡医療介護多職種連携研修会 (かかりつけ医認知症対応力向上研修) 認知症は予防できるのか？ - これからの地域に求められる予防の知識と理解 - 「発症後の視点から」という内容で講演の機会を賜った。

認知症予防について

認知症予防は大まかに、1次予防 (発症させない)、2次予防 (発症を遅らせる)、3次予防 (進行を遅らせる) の3つに大別される。

1次予防については、当科の赤坂博助教が「発症予防の視点から」というテーマで、本邦における高齢化と紫波町矢巾町の比較や国内外の認知症の推移や1次予防の基本、そして予防の研究に重要な視点などについて、研究者の目線からの講演を行った。

続いて石塚がMCIとADに病態や、疾患修飾薬も含めた治療の現状について説明した。そして2次予防における早期発見・早期診断の重要性を強調し、我々の研究グループが開発した「ワンフリーズスクリーニング法」(図1)や「老健式活動能力指標によるMC

ワンフリーズクリーニングによる検出率

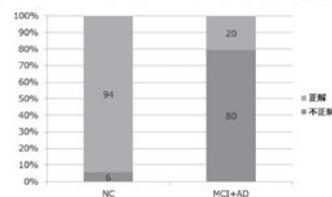


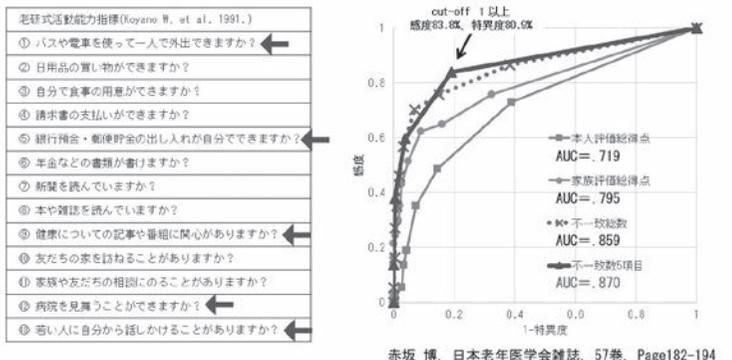
図1

藤澤 豊ら、日本老年医学会雑誌、55巻、Page202-209

1・早期ADの検出法」(図2)について述べた。

3次予防については、重症化予防やBPSDのメカニズムとその対応法について説明し、パーソンセンタードケアについて概説した。そして機能維持としては特にフレイルに着目し、現在当科が行っている前向きコホート研究 (Yahaba active aging

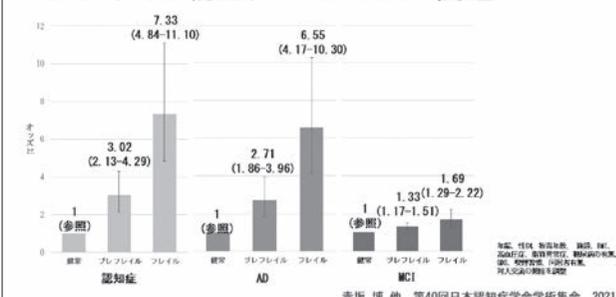
本人と家族のIADL評価の不一致によるMCIの判別 図2



and healthy brain study, YAHABA Study) における前向き調査のデータの一部を紹介し、矢巾町におけるフレイルの実際について報告した。また2021年に発表した全国約9000人の横断研究の結果におけるフレイルと認知症の関連についての検討では、フレイルとMCI・認知症が強い関連がみられたことを紹介し(図3)、因果関係については現在縦断的な研究を行っている。

質疑応答では、座長の野崎 有一 先生よりMCI患者さんの通院の継続についての質問を頂き、紫波郡歯科医師会会長 六本木 崇 先生からは認知症が疑われる患者さんにおける医科と歯科の連携構築の必要性や、オーラルフレイルの重要性についてコメントを頂いた。

フレイルと認知症・AD・MCIの関連 図3



おわりに

現在、認知症予防においては1次予防と2次予防に注目が集まっているが、予防と対になる概念である「共生」については議論が深まっていない印象がある。誰しも病気にはなりたくないのは勿論ではあるが、認知症予防を声高に叫ぶことはさもすればすでに認知症になってしまった人の否定につながることも危惧される。現在の認知症診療における「共生」は、重症化やBPSDの防ぐことにより、認知症の人やその家族・介護者が住み慣れた地域に支障はあっても長く朗らかに生活できる環境を整えることであると考えている。それは医療だけでは成し得ることができず、このような会を通して医療従事者や福祉従事者がお互いの意見を言い合える風通しの良い環境を作ることが本当の意味での多職種連携であり、認知症を受け入れる土台づくりに繋がることを期待する。今回の研修会がまた新たに多職種が連携するきっかけとなり、紫波郡にお住いの認知症の人やその家族・介護者にとって快適な地域づくりの一助となれば幸いである。

謝辞

昨年に引き続き当科に認知症に関連する講演を賜り、座長の労をお取りいただいた野崎内科・神経内科の野崎 有一 院長先生、ならびに紫波郡医師会、紫波郡地域包括ケア推進支援センターの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

エッセイ**みちのく療育園開設20周年を迎えて****みちのく療育園メディカルセンター 名誉園長 伊 東 宗 行**

社会福祉法人新生会みちのく療育園メディカルセンターは令和4年11月5日、矢巾町田園ホールにおいてご支援いただいた皆様のご臨席を賜り、開設20周年記念式典を執り行いました。平成13年7月1日の開設ですので20周年は1年前でしたが、新型コロナウイルス感染症防御のために順延致しました。当施設は重症心身障害児（者）の家族の願いと岩手県民の要望に応じて、県内初の児童福祉法に規定する重症心身障害児施設「みちのく療育園」として発足し、岩手医科大学、

岩手県医師会、紫波郡医師会はじめ地域の医療機関および岩手県、県内自治体、特に矢巾町、紫波町の保健福祉行政機関、各地の障がい者支援団体等多数の皆様よりご支援を頂いてまいりました。心から感謝と御礼を申し上げます。

我が国特有の福祉施策に則る重症心身障害児施設の運営は利用者の年長化や障害の重症化等により法改正と共に事業の改変が求められて来ましたが、県内の障がいを持つ人々と家族の幸せのために尽力してまいりますので、皆様の更なるご鞭撻をお願い致します。

以下に施設の開設から20年間を振り返り、福祉と医療活動の概略を報告致します。

1. 開所直前の準備

当初、施設の運営開始（開所）は平成13年6月の予定でしたので、法人内の準備室は医療、介護職員の確保と共に重症心身障害児（者）の医療・福祉を研修しながら児童相談所からの入所希望者リストを基に家庭訪問と実態調査に専念しました。一方、医療法に規定される一般病床54床の病院としての医師数3名の採用に奔走し、岩手医科大学臨床各科の主任教授、医局長および県医師会に折衝を重ねた結果、辛うじて7月1日開所に漕ぎ着けました。

2. 開所後の施設運営

平成13年7月2日（月）開設初日は晴天に恵まれ、辞令交付後、総務部、診療部、療育部（看護科、支援課、地域課）全職員42名で業務を開始しました。開所後は毎週2人前後の入所者（入院）を受け、翌年4月には50名に達しました。入院病床54床のうち4床は福祉事業としての短期入所にも利用されました。

平成24年に法改正があり、施設は医療型障害児入所施設（児童福祉法により18歳未満児）と療養介護事業所（障害者総合支援法により18歳以上者）を一体化して運営されることになりましたが、長期入所者の療育と医療の充実に努め、日常を安全で楽しく過ごすための生活支援および地域の社会福祉に貢献する活動を地域の保健・医療・福祉関連施設と連携して実践してきました。

令和元年度に居住棟（病室等）を増築し60床に増床して濃厚な治療処置を要する入所者に高

度の医療・看護を提供するための環境を整備しました。

令和4年4月にみちのく療育園メディカルセンターに改称し、9月から岩手県医療的ケア児支援センター（相談支援部門）を受託運営しています。

3. 長期入所利用者の状況

当施設の開所以来、常時定員満床で経過していますが、令和4年10月まで生活を共にしてきた長期入所利用者は74名です。年々、利用者の平均年齢が高くなり、開設初年度は23歳（6～55歳）、10年後は30.2歳（13～65歳）、20年後の令和3年度は37.1歳（17～70歳）でした。更に障害の重い超重症児者が増加傾向にあります。

他の施設に移られた方5名、自宅に帰られた方3名、亡くなられた方が9名でした。

4. 障がい児（者）を主とする外来診療

当初は小児科、内科、歯科を標榜し、順次リハビリテーション科、精神科、耳鼻咽喉科を加え、外来診療は予約診療制の専門外来として継続していますが、平成20年ごろから発達障害関連の受診者が著増しています。歯科は当初から岩手医大からの出張診療で障害者歯科を専門としています。耳鼻科、整形外科は非常勤医師により定期的に診療しています。

5. 障害児（者）地域療育等支援事業

岩手県の委託事業で平成14年度～18年度に県内各自治体の在宅の障害児（者）の療育相談と指導に医師、看護師、相談支援員等の専門職チームを派遣しました。

6. 重症心身障害児（者）通園事業

平成14年10月から岩手県の委託により開始しましたが、平成24年度から法定化され児童発達支援および障害福祉サービス・生活介護に移行継続しています。1日平均5人前後の利用者数であるが、感染症の流行期には休園せざるを得なく利用実績は変動しています。

7. 居宅生活支援事業：短期入所及び日中一時支援

平成13年7月、定員4名で開始しましたが、利用者は1日1～2名に留まりました。令和元年からは空床型利用に変更しています。インフルエンザ等の流行期間には感染対策上の利用制限もあり、需要に対応が困難な状況もありました。

8. 相談支援部門の拡充

令和元年度から相談支援専門員を配置し、外来診療、施設利用等の相談業務を始め、3年度に紫波町矢巾町より医療的ケア児者等コーディネータ配置事業を受託しました。

9. 学校教育（特別支援教育）

県教育委員会のご配慮で県立盛岡となん支援学校の訪問教育が平成13年8月から継続されています。在籍児童生徒は平成16年度が22名最多でしたが、以後漸減し令和4年度は高等部生徒4名になりました。

10. 施設外活動

岩手県はじめ近隣の自治体からの行政施策に協力し、医師会、社会福祉、障がい者団体等と連携して地域医療・保健・福祉活動にも参画し、小児の健診、研修・講習会等に専門職員を派遣しました。



訃報

吉田昭先生(満94歳)におかれましては、令和4年9月6日ご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学 歴

昭和 2 年12月25日生まれ

昭和30年 3 月 岩手医科大学 卒業

職 歴

昭和31年 4 月 国立陸中療養所

昭和33年 4 月 前沢町国保古城診療所

昭和42年 8 月 矢巾町国保第二診療所

昭和52年 4 月 不動診療所

役員歴

昭和55年 4 月～昭和63年 3 月 紫波郡医師会 理事

昭和63年 4 月～平成10年 3 月 紫波郡医師会 副会長

表彰歴

平成 4 年11月 岩手県教育表彰(学校医・保健衛生功劳)受賞

平成10年 6 月 岩手県医師会総会表彰(永年役員功劳)受賞

平成12年 1 月 岩手県学校保健功劳者表彰(学校医)受賞

平成25年11月 岩手県地域医療従事者感謝状(地域医療功劳)受賞

自宅

〒028-3615 紫波郡矢巾町大字南矢幅第5地割91番地20

表彰受章者

★ 令和4年度岩手県医師会会長表彰(地域功労) (令和4年7月3日)
紫波地域診療センター 小野 満 先生

★ 令和4年度岩手県医師会会長表彰(地域功労) (令和4年7月3日)
岩手県立療育センター 嶋田 泉 司 先生

令和4年度岩手県医師会総会における表彰式は、感染拡大防止の観点から本年も中止となりました。

★ 令和4年度叙勲授章(地域医療功労) (令和4年9月1日)
堀江 寛 先生

★ 令和4年度岩手県知事表彰(地域功労感謝状) (令和4年11月16日)
足澤整形形成外科 足澤 國 男 先生

★ 令和4年度岩手県知事表彰(地域功労感謝状) (令和4年11月16日)
南昌病院 西城 精 一 先生

★ 厚生労働大臣表彰(労働基準行政関係功労) (令和4年11月23日)
平和台病院 伴 亨 先生

新型コロナウイルスワクチン接種に係る感謝状授与

紫波町令和4年9月16日



矢巾町令和4年9月13日



会員の異動

11月30日	足澤 國 男 先生 (足澤整形形成外科)	自宅会員	10/31 閉院
--------	-------------------------	------	----------

編集後記

徐々に日差しが強くなり、春の訪れが待ち遠しい今日このごろです。

コロナ感染症も終息しつつあります。5月の連休明けには、指定感染症の5類となりそうです。どこかへ出かけてみようかと地図と遊んでいます。

もうすぐお雛様です。60年前、ひな団子を母達と作ったことを懐かしく思い出しました。色々な木の型を使い、色を付け、楽しかった思い出です。最近、昔の事を色々と思い出し、懐かしく思うことが多くなりました。私も年を取ったのかなと思います。まだまだ元気に岩手出身のスポーツ選手達に負けないように頑張らなければなりません。

大ジャンプで金メダリストの小林陵侑選手は紫綬褒章を受章し、二刀流大谷翔平選手の投打に渡る大活躍、そして、千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希選手は投手として完全試合を達成しました。錦木関も三役が目前です。今年も素晴らしい活躍をしてくれることを祈っています。

先生方の投稿（エッセイ、表紙の写真、絵画等）を随時お待ちしております。ご意見・ご要望がございましたら、医師会事務局までお寄せください。

紫波郡医師会 加藤 博 巳

発行 紫波郡医師会 発行責任者 木 村 宗 孝
編集委員 遠 藤 直 樹
早 坂 朗

【事務局】 〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵工新田第5地割335番地
TEL (019) 611-2211 FAX (019) 611-2216

万一の備えは 足りていますか?
所得補償保険の月額



医師の給与・報酬 + **従業員等の給与** + **その他費用**
※ 地代家賃・機器リース等

必要な補償額

※その他費用は固定費(休診しても必要になる費用)が対象

簡単チェック♪ ここ数年見直していない 従業員が増えた 適正な月額が分からない

✓が付いたら、お気軽にご相談ください。 毎月5日〆切→翌月1日スタート

担当：高島・目黒

TEL.019-626-5550
FAX.019-626-3883



いわて医師協同組合
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
 〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

身の回りには危険がいっぱい! 以下に心当たりはございませんか?

- 水害・地震で建物に被害があった場合、補償されるの?
- 一年前に入院して完治。保険に加入できないの?
- コロナウイルスに感染した場合の補償はないの?
- 福利厚生を充実させる商品はないの?



少しでも気になることがございましたら、**保険部**へご相談ください。

岩手県医師会会員の方、いわて医協組合員の方、専用の割引制度あり

担当：高島・目黒

TEL.019-626-5550
FAX.019-626-3883



いわて医師協同組合
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
 〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内